

会 議 錄

会議の名称	平成29年度第2回史跡津軽氏城跡堀越城跡整備指導委員会
開催年月日	平成29年11月30日(木)
開始・終了時刻	午前10時から午後11時30分まで
開催場所	弘前市岩木庁舎2階 多目的ホール
議長等の氏名	委員長 関根達人
出席者	<p>【専門部会委員】 委員長 関根達人 委員 大野敏 委員 福井敏隆</p> <p>【行政部会委員】 堀越町会長 竹谷光昭 建設政策課長 三上敏彦 財務政策課長 岩崎隆(代理出席:三上主事) 都市政策課長 天内隆範(代理出席:境総括主査) 公園緑地課長 古川勝(代理出席:鳴海課長補佐) 観光政策課長 後藤千登世(代理出席:中澤課長補佐)</p> <p>【オブザーバー】 県教育委員会文化財保護課埋蔵文化財グループ 葛城主幹</p>
欠席者	<p>【専門部会委員】 委員 小林敬一</p> <p>【行政部会委員】 ひろさき未来戦略研究センター副所長 森岡欽吾</p>
事務局職員の職氏名	<p>文化財課課長補佐 村元広美 同課主幹兼埋蔵文化財係長 岩井浩介 同課主事 福原健 同課主事 東海林心 同課主事 赤石茜 建設政策課 工藤技師・藤田技師 株式会社創宇舎 古川代表</p>
会議の議題	(1) 史跡ガイダンス施設(旧石戸谷家住宅)における展示計画について (2) その他
会議結果	別添議事録のとおり
会議資料の名称	

会議内容 (発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)	別添議事録のとおり
---	-----------

【会議内容要旨】

議題（1）史跡ガイダンス施設（旧石戸谷家住宅）における展示計画について

福井委員 : この時期は文献資料がない時期であり、文献で言えることは少ない。発掘成果を中心とした展示になるのではないか。なお、南部町の聖寿寺館跡等、南部の城との比較などをやっても良いと思う。

事務局 : 城郭史として南部の城との比較対象は可能と思っている。また、中央政権との関連城郭との比較もできると考えている。ただ、スペースは限られているので、工夫は必要となる。

関根委員長 : 弘前城のガイダンス施設の展示検討の際に提案したが、五稜郭跡ではタッチパネルで世界の城郭と比較できるような展示を行っていた。堀越城跡ではそこまでやる必要はないと思うが、南部と津軽の比較は重要だと思う。縦軸としての種里城・大浦城・弘前城との規模構造の比較とともに、横軸として、南部町の聖寿寺館跡はやや古い城郭のため比較は難しいが、三戸城や根城など関ヶ原の戦いの頃に機能し、かつ調査が進んでいる城と比較した展示を行うと良い。堀越城の説明を行う際にも、他の城との比較によりその位置づけが分かりやすくなる。最近、滋賀県立大の中井先生は、織豊期において、東北では最上氏の扱いが別格であると注目している。比較としては、中央城郭もあるが、最上氏など東北の城郭との比較も重要と思う。

事務局 : 他の城郭との比較展示は検討したい。例として挙げていただいた最上氏の山形城などは実態が不明な点も多いなど、課題もあるように思われることから、調査検討も必要と思われる。

大野委員 : 展示スペースが狭く情報が限られるというのは結果論なので、資料収集の際には十全に収集しておく必要があり、その中から厳選したものを展示するということが重要。また、弘前城とのつながりを一般の人にもわかりやすく説明すると良い。

なお、旧石戸谷家はガイダンスにもちょうど良い、ということで市としては移築復元したのだと思うが、実見すると重要文化財である五所川原市の平山家に匹敵する質が高い建物だと考えている。また、東北の中でも大規模であり、価値の高い建物であることから、復元の方針や建物の変遷、部屋の機能などを調査し、報告書に是非まとめてほしい。そして、その成果を展示で見られるようにすると良い。

ウマヤでの展示については、ウマヤとしての機能がわかりにくくなるのが残念だが、次の重要文化財指定へのステップもありうる建物なので、まずは建物本体へ手をかけない方法で進めてほしい。

事務局 : ウマヤそのものを紹介する展示は、事務局でも行う方向で検討している。

大野委員 : 映像作成費は高額ではあるが、「動いている絵」は視覚的に効果が高く、費用対効果としてはむしろ安価といえる。

関根委員長 : 旧石戸谷家住宅については、是非紹介映像を作成してほしい。他の建物との比較も行うことで、価値の位置づけも明確になる。地元の活動拠点ともなる施設だが、町会から要望はないか。

竹谷町長 : 今は特にない。市からは色々相談も受けている。

関根委員長 : 町会からは、いつでも文化財課へ要望を伝えてほしい。

建設政策課長 : 旧石戸谷家の映像については、市費での作成とのことで、財政的には厳しいかもしれないが、効果は高いと思うので、是非作成してほしい。視聴者のターゲットなど、映像の中身の検討はこれからか。

事務局 : メイン映像については、基本的に小学校高学年以上を対象とする、万人向けのものとなると思われる。映像作成過程の成果は、できればブックレットなどに切り出し、頒布を行えるようになると、市にとっても歳入などのメリットも出てくるものと思っている。

大野委員 : 旧石戸谷家住宅の映像等については、文化庁の芸術文化振興基金の助成や、大手企業の助成金などの利用も検討できるのではないか。

事務局 : 文化庁の芸術文化振興基金などについては、無形文化財等で利用していたかと思うが、検討したい。

大野委員 : 文化庁は近年、文化財建造物の住民等による活用を推進しており、その活動を行う建物の修理も含めて応援している。

福井委員 : 将来的にはガイドなども配置するのだと思うが、どこに詰めることとなるのか。

事務局 : ハード的には「ダイドコ」等の板の間部分を常駐の場とし、「コベヤ」・「ナンド」・「2階の部屋」などをバックヤードとする配置で進めている。ガイドの養成等は現在、地元団体と協議を始めているところである。

関根委員長 : ガイドの利用時期はどうなるのか。

事務局 : 基本的には「雪のない時期」となる。具体的には堀越地区雪置場が機能する 12

月から3月は冬季閉鎖となる見込み。

関根委員長：浪岡城跡などでは冬季のイベントなども実施していたこともある。

事務局：雪合戦など、冬季にしか出来ないイベントの開催は是非検討したい。

県葛城主幹：近年は文化庁の補助事業予算も厳しいが、当初目的どおり計画的に進めてほしい。

議題（2）その他

事務局より、現在の整備事業の進捗状況と来年度の事業見込みなどを報告。